



大正三年四月廿三日印刷
大正三年四月廿五日發行

【定價三錢】

長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
編纂兼發行人 安井正夫
上水内郡岸田村字中御所八十番地
印刷者 田中彌助
長野市西后町乙廿一番地
印刷所 長野新聞社活版部
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地
發行所 蘆澤書店

岐蘇林友

第五十四號目次

研究、臺灣の相思樹に就て 大脇生
記事、學校記事、寄宿舎記事
文苑、春より人へ 翠村生、森林の
詩趣 信天翁、思ひ出 覺明
行者
通信、長野より 洋舟生、藤卷生
雜報、

掛卷くも畏き

皇太后陛下の御崩御を拜

聞し奉り

恐懼痛悼の至りに堪へ

ず茲に謹み畏みて至誠

哀悼の微忱を表し奉る



研究

臺灣北部に於ける相思樹の
生長量及收穫調査に就て

(承前)

大脇 又 衛

第三節 收穫表一般調査法と

今回の調製方針

一般に收穫表は其の土地より産出し得るたけの收穫量を現はせるものなるが故に之を編成するに方り試験に供すべき林地は其の樹種は勿論地位林位及作業法等の同一なるものを撰ばざるべからず而して一定年度を隔てたる森林に就て毎町歩の本數直徑材積等を調査せば之に依りて收穫表を調査し得べし然れども斯くの如き理想の森林に實際

に於て到底得らるべき所にあらざるが故に之が調査には通常左の方法を適用す

第一法 法正状態を有する林木に就き幼時より年々又は一定年度毎に其材積を測定して之を表す

但此方法は理論上完全なるものなれども長年月を要するのみならず殊に永き間に於ては虫害風害盜伐或は火災等の被害に罹ることあるを以て容易に行はれ難き感あり

第二法

同一の樹種作業法に屬し年令を異にする多數の林木を撰み年々又は一定年度毎に其材積を調査し同一位級を求め之を綜合して伐期に至る迄の生長を知るもの

此方法は稍完全なりと雖も尙數年若は數十年を要するを以て困難な

第三法

樹種作業法同一にして年令を異にする多数の林木を撰定し各林木の材積及之を求むるに使用したる因子を求め以て各位級に對する生長の徑路を調査し表するもの

- (一)前項測定の結果を以て曲線法により各年令及中央高に對する地位を決定すべし
(二)地位の決定を爲したるときは各地位に屬するものにつき各五ヶ所以上の標準地を撰定(可成三、六、九、十二、十五若しくは之に近きもの)毎木調査を行ひ材積を測定をなすべし
(三)標準地撰定の標準は次の如し
1、鬱閉中庸なること
2、外部の被害を受け居らざること
3、凡ての關係が各部均一なること
4、一圃地中林縁は避くること
5、標準地の面積は二反歩以上なること
(四)標準地の材積は「ウーリヒ」氏の法又は「ドラウト」氏の算法に據る
(五)標準地調査の際はその位置地形地況林况林令及森林成立其他必要なる事項を詳査すべし
(六)標準地測定に於て各地位最高令の標準地より撰定せる標準木の内各一本につき樹幹折解を施し生長の査定をなすべし
(七)標準地測定に於て樹幹折解を施し生長の査定をなすべし
(八)第三項及第七項測定の結果に依り各地位別に年令に對する材積の生長曲線を作り形るべし(圖上にて可なり)
(九)底面積合計及高さの生長曲線を作り形數表により各年令の材積を算定すべし

(十)前二項の結果を比較對照して甚しき差異なしと認めたる時は材積生長曲線を基礎として收穫表を調製すべし若甚敷差違ある時は測定計算其他に於て誤謬あるべきを以て其原因を發見し更に調査すべし
(十一)收穫表の形式は別表の例による(後掲)
(十二)收穫表(播種)及萌芽更新によるものは各別に調査す併せて萌芽更新に堪得難き年數(新植期)を調査すべし
如上の方針により調査に従事したりしか由來愛林思想に欠陥し殖林の觀念なき本島人は其人工植栽若は播種造林又は天然下種並萌芽林たるを問はず凡てに向て極めて粗放なる取扱をなし何等方針を存せざるを以て秩序なく伐採し代期施業法等を顧みることなく唯一時の需要を充たせば足れりとの淺慮にて加ふるに到處思想樹を見るも多くは防風林として耕地の畦畔又は宅町に植へ又は茶畑鳳梨(學名) Ananas latius 台灣名オンライ(荳菜)畑等の保護木として点在し或は濫伐跡地に見るに過ぎざるを以て實地之が調査に従事し試験に供するに際しては第一に標準地撰定に困難を覺へ精密に謂ふときは其希望に副ふ個所は僅に數ヶ所にして到底完全すべきものあらず殊に地位を三等分せんとするときは叙上の如き造林法にては不可能なりと斷言するを得べく故に實地に於ては止むを得ず前記標準規定に多少の手法減を用ひたる處なきにあらず例へば

Table with columns for '計', '新', '桃', '園', '林', '計' and rows for '計', '中', '竹', '園', '林', '計'. It contains numerical data for different types of forests and their measurements.

面積を二反歩としたる林況に大差なきを認めたるときは一反歩を用ひて標準地となし又地位決定に就ても豫め各年令のものを伐採して之が調査判定したる後之によりて標準地を撰定するが如き餘裕ある材料を欠くが故に到處の適當なる林地より數本を撰定し以て標準地となし一方到處に適當なる林地より數本を伐採して地位測定に供したり且一般に老木少くして樹幹折解用木を標準木中に見出す能はざりし爲全林中に於て適當なるものを伐採したるか如きこと之なく斯くの如く實地調査に際しては諸種の困難を生し殊に植栽年月の明かならざる爲め之を年輪に徴するも元來熱帯地の潤葉樹の常として偽年輪多く頗る不明にして的確なりと斷定し難きものありて充分なり試驗材料を得能はざりしと雖も大体に於て誤謬少なるべく専ら前記の調査方針を標準として測定せり其個所を擧ぐれば

は常設試験地に於て數回の觀査を行ひて尙足れりとなし鋭意研究して止まざるものに比すれば素より宵壤の差あるは勿論顯官各位の高麗に依るものに對しては一の微々淺浅の調査たる本文が到底企て及ぶべきものにあらずは言を俟たす
第二章 地位
第一節 地位判定の方法
爰に調査の第一歩として地位の判定を行はざるべからずこれ地位か林木の生長及收穫に深大なる關係を有し支配左右するの力あればなり
土地は其地彼の狀況土壤の成分深度湿度等によりて異なるが如く地位も氣候地勢及土地の化學的成分及理學的性質等によりて異なる諸因子の結合亦頗る繁雜にして原因種々ありて一見容易に其地位を判定すること困難なり加之樹種によりては各其適否を異にして甲地に適するものか乙地に適せぬ又之と反對に現るゝことありて到底一定の標準を以て現はすこと能はず故に實地に於て此種々なる地位を一定の階級に區別するに其地位の要素たる氣候地勢土地の三者に據りて地上に現るべき生産力の結果即林木の收穫によりて判定するが故に地位決定に就て收穫表の必要なる所以なり

之を獨逸に於けるが如く一の收穫調製に方數百の標準地に於て數回の調査をなし又

然れども今は收穫表に據る能はずして他の方法に依らざるべからず而して茲に三法あり即ち
(a) 伸長力によりて地位を鑑識判定す
(b) 樹木生長の狀況によりて地位を判定す
(c) 其他に生する固有植物によりて地位を判定す
第一法は已に明なるも第二法は樹木の伸長及肥大の狀況を察し相互比較して其地位の良否の比較を識別するものなれども唯熟練上より判定するに過ぎずして確實なりと云ふを得ず第三法は森林内に自然に生育する樹木雜草の類若は蘚苔を見て判定を下すものなるも専門高等の知識を要し且單に補助參考たるに止まるものにして直に地位を判定するには稍輕慮の感あり
故に生は前述せる「バウル」氏の假定(鬱閉完全なる林木は材積の連年生長は高さの生長に比例す)に基き直接土地の生産力を代表する森林の材積に換ふるに第一法を以てし即曲線法によりて之を三等に區別せんとせり(調査標準第二項及第二項)而して此方法に依るときは樹冠滿にして鬱閉も又中庸なる林地を撰ばざるべからず若し之に反する森林地にして疎立する處は日光樹幹を直射して肥大力の増加を示すと伸高力に不規則にして且短縮せらるゝを常とす故に標準地は前者に據らざるべからず然れども林木の伸長力は年令に關係し四五十年にして旺

のあり四五十年にして盛なるもの... 幼時に盛るものは早く衰へ其... 樹種と異なるも特に想思樹... 如きは生長... 共に又速に減退する... 茲に附... 事... 最も要求して止まざるは森林... 以上完全なる地位級を欲することなり... 換言すれば其地に最適なる樹種を植栽し... 最も完全適切なる作業法を探り且つ法正に... 生長せしめ得る林地を撰し完全なる方法を... 以て決定せるものを希望することなく然れ... ども實地はこれを許さざる場合多しこれを... なさんとせば多くの年次と多くの金員と多... くの人員を要せざるべからず尙詳言すれば... 日光風雨寒暑即ち氣候に對する設備と動植... 物の被害に備ふる設備を完くせるべからず... これ理想上の空想にして畢竟専門の方面に... 譲らざるべからず故に實地に於てはこれが... 適當なりと謂ふ程度を發見するは頗る困難... にして又余等のなし得べき處にあらず依て... 之等の希望を排して現在する林地につき彼... 是撰定の理想に近きものを採り判定を下... すの止むを得ざるに満足せざる可らず而し... て生はこれ等の林地を指して前者を法正的... 地位又は絶對的地位或は想像的地位とし後... 者を現在地位と稱せんとす而して兩者は時... に稍近き點にまで接することあるも先づ相... 遠かるものとして可ならんと信す

學校記事

今回の調査に於ては即ち後者に據りて現在... 林を其儘測定して直ちに現在地位を決定せ... んとしたり... 附 地位等級前に種々なる方法あり精密な... るものは頗る便利なるは勿論なるも本島... 現在の思想樹林地にてはこれをなすに困... 難多く又緻密に區別して其收穫を研究せ... んとするは却つて誤謬を招くの恐あり故... に今回は三級に區別せる所以也(未完)

○學年試験 三月九月に始まる該試験は... 十八日終る二十三日午前に至りて卒業進級... 俱に成績の發表ありたり

○證書授與式 三月二十四日午前十時より... 本校第十一回卒業證書授與式舉行せらる天... も分袂の悲哀を啣ちてか朝來雨聲の蕭々た... るあり生徒職員來賓の順序に着席するや校... 長舉式を宣し一同音吐明かに壯嚴なる國歌... (君ケ代)を合唱し次で勅語捧讀あり七宮教... 頭本年度學事報告をなしたで校長は別記卒... 業生に證書を授與すること二十三名尙各級... 優等生精勤生皆出席者に夫々賞状を授け了... つて一場の訓辭を與へられぬ知事代理とし... て臨場せられたる新任乾西筑摩郡長は告辭... を朗讀せらる來賓松田前校長、松岡縣會議... 員、新聞記者等の祝辭あり在校生總代田近... 善右衛門君送辭を朗讀するや卒業生總代塚... 田大君の答辭朗讀ありて閉式しぬ當日來賓

告辭

前記松田技師の他數十名ありき... ○肖像掲載式 卒業證書授與式に引續き本... 校初代校長松田力熊先生、二代校長江畑猷... 之丞先生の肖像掲載式を擧げたり而かも該... 肖像畫の執筆者は兩校長ともに本校の爲積... 年盡粹せられたる高木本技先生なるは誠に... この式を擧ぐるに至密の關係を有せる旨を... 安藤校長述べて降壇次で松田先生登壇本日... の榮譽ある式典に招聘せられしを謝し且江... 畑先生の缺席せられしに代り謝辭並に回顧... 談ありて閉式せり

○紀念撮影 式後職員及卒業生は紀念撮影... を細雨中になす

方今世界經濟界ノ進運ハ我國民ヲシテ實... 業教育ニ待ツアル甚ダ急ナラシムルモノ... アリ此秋ニ際シ諸子茲ニ山林學校ノ課程... フ終了シ將ニ出デ、林業ノ實務ニ當ラン... トス諸子ノ責務洵ニ重且大ナリト謂フベ... シ惟フニ輓近本邦ノ林業ハ其成績較々見... ルニ足ルモノナキニ非ズト雖モ之ヲ歐州... 先進國ノ林業ニ比スレバ猶未ダ前途遠遠... ノ歎ナクンバアラズ故ニ帝國ノ林野整理... シ之ヲ造成スルハ眞ニ我國ノ長計タルノ... ミナラズ又我國目下ノ急務タラズンバア... ラズ

諸子宜ク事態ノ急ニ鑑ミ各其既ニ履修セ... ル所ヲ執テ以テ之ヲ實際ニ施シ力行感ハ... ズ勤勉倦マズ以テ本校教養ノ旨ニ副ハン

コトヲ期スベシ洵ニ斯ノ如クンハ庶幾ク... ハ今日ノ光榮ヲ更ニ他日ニ發揮スルコト... ヲ得ン歟一言告辭トス

大正三年三月二十四日

長野縣知事正五位勳四等 依田銈次郎

送 辭

萬葉ノ紅葩未ダ笑ハズ黃鳥ノ嬌音未ダ遙... カナリト雖モ薫風爛々山野ニ隈リ蘇峽ノ... 天地ヤ將ニ陽春ノ佳季ヲ迎ヘムトスルニ... 當リ茲ニ本日ヲトシ本校第拾壹回卒業證... 書授與ノ式典ヲ舉行セラル

思フニ百花ニ魁シ南技先ヅ笑ム梅花ノ譽... ハ冬ノ寒威ヲ凌ギタル餘榮ニ基キ燕舞... 雀躍ノ歡樂ハコレ唯勉努力ノ成果タラズ... ンバアラズ諸兄茲ニ本校卒業ノ榮譽ヲ擔... ヒ今日ヨリ社會ノ囑望ヲ負ヒ無限ノ前途... ニ向テ洋々タル希望抱負ノ實現ヲ肆ニセ... ムトスル衷心ノ怡悅ハ皆是レ兄等不撓不... 屈ノ資戈ヲ以テ諸先生ノ薰陶開發ニ育成... セラレ螢雪ニ歲刻苦研讀ノ功ヲ積マレシ... 結果ニアラズシテ何ゾヤ諸兄今日ノ光榮... ト得意トハソレ實ニ幾何ゾヤ思フニ我林... 業界ハ近時漸ク多忙ヲ極メ來リ天下到ル... 處適當ノ技術者ヲ要望シツツアリ是正ニ... 兄等ガ鵬翼ヲ張リ驥足ヲ伸スノ時ニアラ... ズヤ諸兄ハ必ズヤ其鍛鍊セル手腕ト頭腦... トヲ縱横ニ發揮シ以テ我林業界ニ貢獻セ... ラルベキハ生等ノ信ヲ疑ハザルトコロ... ナリ願レバ生等諸兄ト莫逆ノ交ヲ結ビテ

茲ニ年アリ花長月夕或ハ鋤ヲ振ヒテニ... 立チ袂ヲ連テ山ニ嘯キ風日雪天或ハ机... ヲ並ベテ學ビ爐ヲ擁シテ談ズ諸兄ハ實ニ... ヨク生等ヲ慰ムルト同時ニ又ヨク生等ヲ... 導キヌ諸兄ノ恩ヲ深ク其愛ヤ大ナリ今ヤ... 一朝袂ヲ分タムトス惜別ノ情何ゾ堪ヘン... 庶クハ諸兄ヨ縦ヒ江山万里ヲ隔ツトモ春... 風秋雨舊ヲ憶ビテ思フ母校ノ上ニ走セ時... アリテカ生等ヲ啓發シ生等思慕ノ情ヲ空... シウセシメザランコトヲ生等亦兄等ノ遺地... ヲ發揚シ敢テ諸兄ノ後進タルニ孤負セザ... ラムコトヲ期センノミ別ニ臨ミ情切ニシ... テ意阻ミ言フトコロヲ知ラズ聊カ蕪辭ニ... 列ネテ送別ノ辭トナス

大正三年三月拾四日

長野縣立木曾山林學校
在校生總代 田近善右衛門

答 辭

謹シテ啓ス本日ハ如何ナル吉日ゾ生等二... 十有三名ノ爲メ茲ニ卒業式ヲ舉ゲラル生... 等ノ光榮何ヲ以テカ之ニ加ヘン生等ノ今... 日アルハ實ニ校長先生並ニ諸先生薰陶ノ... 賜ナリ思ヘバ三年ノ春秋愚鈍頑冥ナル... 生等ノ指導ニ訓戒ニ如何バカリ心ヲ惱シ... 給ヒケン既往ヲ回顧スレバ漸汗背ニ偏ク... 轉師恩ノ高且大ナルヲ思ハズンバアラズ... 今又知事閣下並ニ校長諸先生來賓ノ懇切... ナル訓辭並ニ祝辭ヲ賜リ又在校生諸君ノ... 送辭ヲ忝ウス

- 生等感激ノ至リニ堪ヘス生等ハ進ンデ學... ヲ修メ退イテ實務ニ從事スルモノトヲ問... ハス齋シク年來ノ教訓ヲ奉シ奮勵努力以... テ鴻恩ノ万一二ニ報ヒ本校ノ名ヲ汚サ、ラ... ンコトヲ期ス謹ンデ答辭ヲ奉ル
- 大正三年三月二拾四日
- 長野縣立木曾山林學校
第十一回卒業生總代 塚田大
- | | |
|------------------|-------|
| 長野縣 上水内郡 鬼無里村 | 塚田 大 |
| 同 上伊那郡 西春近村 | 酒井 光 |
| 同 西筑摩郡 福嶋町 | 千村 吉 |
| 同 北安曇郡 陸田村 | 關 琴 |
| 同 岐阜縣 加茂郡 西白川村 | 新 田 穰 |
| 同 惠那郡 福岡村 | 原 潔 |
| 同 長野縣 更級郡 信田村 | 石坂 季 |
| 同 東筑摩郡 松本村 | 赤 羽 高 |
| 同 埴科郡 埴生村 | 山 崎 三 |
| 同 岐阜縣 益田郡 竹原村 | 梅 田 吉 |
| 同 長野縣 上伊那郡 高遠町 | 柳 澤 義 |
| 同 岐阜縣 惠那郡 福岡村 | 市 岡 新 |
| 同 同 益田郡 萩原町 | 今 井 安 |
| 同 同 惠那郡 串原村 | 中 垣 英 |
| 同 同 長野縣 長野市 田町 | 二 木 季 |
| 同 同 北安曇郡 中土村 | 齋 藤 海 |
| 同 同 埴科郡 清野村 | 久 保 照 |
| 同 同 廣嶋縣 山縣郡 河内村 | 不 免 修 |
| 同 同 長野縣 小縣郡 上田町 | 澤 柳 壽 |
| 同 同 山梨縣 南都留郡 道志村 | 佐 藤 光 |

愛知縣 寶飯郡 八幡村 岩瀬 幸吉
 長野縣 西筑摩郡 讀書村 長谷川 房藏
 石川縣 羽咋郡 西増穂村 深美 利一
 一賞状 受領者
 卒業生 塚田 大
 第二學年 生 丸山 岩吉
 同 田近善 右衛門
 一、皆勤により賞状を授けし者
 三ヶ年間皆勤 卒業生 塚田 大
 同 原 潔
 同 千村 吉雄
 同 丸山 岩吉
 一ヶ年間皆勤 二學年生 丸山 岩吉
 同 柳澤 得衛
 同 篠田 秀平
 同 伊藤 喜代
 同 安井 嘉一
 同 竹原 久治
 同 唐澤 俊文
 同 一學年生 丸山 嘉二郎
 同 拓植 五郎
 同 喜多村 弘
 同 中畑 佐耕
 同 開運 隆飛登
 同 前野 今朝次郎
 同 樋口 勵
 同 森下 義郎
 同 武井 喜太郎
 同 平田 實

同 矢嶋 武六
 同 今井 武雄
 同 梅村 計介
 同 白井 素慶治
 同 古畑 今朝茂
 同 新井 清美
 同 小松 良輔
 ○卒業生謝恩會及同窓別會 紀念撮影後卒業生一同は校長及諸先生の臨席を得て謝恩會を催し過古三歳の追憶前途の希望を暫し打語りひき會後直ちに校友會送別會を開く田近善右衛門君開會の辭を述べ校長先生の別辭あり其地二三生徒の分袂名殘惜しの送辭あり
 ○始業式 四月一日午前九時舉行校長よりは前學年度の一般成績に關する批評及今後の注意を要する事項及本學年の方針並に注意すべき件等に付約一時間に亘る訓示あり
 ○現在三學年生四十五名二學年生六拾壹名と註せられぬ式後各學年の實習組別をなし同時に組長副組長を互選す
 ○實習服制定 本校實習上の作業は從來各生徒の適宜なりしが右は制服を汚損するため種々の不都合を感つゝありしが前月中に於て職員生徒合議の結果本學年度より統一することになり

一することに決したり則ち三學年は茶褐型木綿二學年は黒地木綿にて何れも制服型衣袴を用ふることとせり
 ○春季實習開始 寒氣漸く退き春光融融の好期は本校實習の大繁忙期なり四月二日より二三學年ともに嚴冬に耐へし苗圃の稚苗を摘み去り草を抜き良否を撰別して假植等に着手しぬ八日制定の實習服到着以後は特に敏捷の度を増したり殊に三學年生のカーキ服は異彩を放ち遠目には軍人の如く見受けらる從て生徒の得意然たるを覺ゆ各學年の分担事業は大畧前年度に準じ左の如し
 第三學年 模範苗圃。試驗苗圃。播種事業。杉ノ造林。間伐實習。一年生指導
 第二學年 播種。床替。林地々拵。赤松ノ密植造林。間伐補助。果樹園の新設
 第一學年 林地々拵。床替。三年生補助
 ○級長組長任命 各學年互選の上校長の詮衡を経て學級及實習組に付左之通り任命ありたり
 第三學年級長 田近善 右衛門
 副級長 東原 智
 第二學年級長 川口 勇次郎
 副級長 下平 佐門
 第三學年 實習組長 同 副組長
 第一組 田近善 右衛門 伊藤 正之助
 第二組 今井 眞二 東原 智
 第三組 松澤 敏男 田中 泰吉

第四組 都竹 武次郎 新井 彌藏
 第五組 丸山 岩吉 長崎 千萬一
 第二學年 實習組長 同 副組長
 第一組 澤田 富可 拓植 五郎
 第二組 加茂 憲太郎 百瀬 三一
 第三組 矢島 武六 下平 佐門
 第四組 千村 彌之助 竹村 節三
 第五組 川口 勇次郎 坂本 光太郎
 ○入學試驗 四月四日午前八時より本校入學試驗を執行す西筑摩郡志願者のみは本校にて其他は各出身地郡役所にて夫々執行す
 ○級主任 次の通り任命せらる
 第三學年級主任 嶋内 教諭
 第二學年級主任 新家 教諭
 第一學年級主任 大場 教諭
 ○學校謹慎 四月九日 皇太后陛下御危篤の飛報に接し校を擧げて靜肅謹慎を以て只管御平癒を禱り奉れるに踰へて十一時午後に到り遂に御崩御の悲報あり校長宛縣よりの訓令にも接せしかば直ちに職員生徒講堂に參集し校長は沈痛なる一場の訓示をなし一同更に謹慎し哀悼の微意を表し奉るべきを述べられたり。四月拾二日哀悼の意を表して休業せり。寄宿舎にては同日より四月十三日迄三日間謹慎せり
 ○入學式 本年度入學志願者は十二縣下に亘り總數七拾六名なりしか試験の結果採用せられし者左記四十四名にして四月十五日午前九時より右入學生に對し入學式を舉行

新入學生出身地及氏名
 山梨縣 小澤武、西筑摩郡 長坂清人、岐阜縣 岩田元吉、西筑摩郡 伊深幾太郎、西筑摩郡 鈴木繁、南安曇郡 白木老雄、西筑摩郡 長谷川毅、東筑摩郡 村上英勇、岐阜縣 會我義郎、同上各務傳六、同上安江悦次郎、下伊那郡 山下不二三、三重縣 松嶋長二、東筑摩郡 宮嶋岩見、山口縣 藏田眞、西筑摩郡 吉川光夫、岐阜縣 小田實、上水内郡 原治二、西筑摩郡 武居章、松本市 小岩井茂樹、山梨縣 丹澤潔、山口縣 藏田毅郎、下伊那郡 榎原武重、岐阜縣 奥村和吉、福井縣 出雲秀一、西筑摩郡 富士川鏡一、上伊那郡 上嶋傳五郎、下伊那郡 平田久良治、新潟縣 明畑榮吉、小縣郡 藤原幾喜、東筑摩郡 上條芳郎、小縣郡 土屋源一、下伊那郡 岡田壽、西筑摩郡 原八二、東筑摩郡 萩原理三郎、富山縣 高峯傳治、福嶋縣 清水徳久、山梨縣 皆川秀雄、愛知縣 夏目熊吉、下伊那郡 下平通雄、石川縣 森本成義、山梨縣 向井惟長、愛媛縣 橫川太市、西筑摩郡 廣井昇
 以上(四十四名)

職員出張 三月末の試験休暇を利用して安藤校長及大場教諭は東筑へ、北村教諭は上下高井へ夫々視察調査の爲出張せられしが四月十八日宮川教諭は上伊那農學校に種々の調査をなすべく出張を命せられたり
 ○叙任、辭令 安藤校長は三月卅日附を以て左の通り位階昇叙。七宮、北村、嶋内三教諭に對しては十四日付を以て左の通り増俸の辭令ありたり
 叙正七位 從七位 安藤 時雄
 七級俸下賜(但當分千五百圓)七宮 純雄
 八級俸下賜(但當分九百四十圓)北村 正夫
 六級俸給與(但當分月四十八圓)嶋内 庸明
 寄宿舎通信(三月より四月へ)
 灰色なりし空もやうやく機嫌打解けてか霞み勝に相成り鳥の聲流水の響撫するが如き風等皆春めき候三月の中の八日我等一年の收穫時とも謂つべき學年試験の難關も終り候夜を日に繼ぎて眠め勉めし事として試験中の奇觀は亦格別にて候ひし卵の殻は狼籍たり牀は取離し而も御本尊諸君は向鉢巻にて顔色常の如く艶かならず宛然病院理の有様にて候ひき「禍なるかな試験」とは強ち否認すべきには候はず然し乍ら奮闘後は亦謂ふべからざる快を感ずるものにて候殊に三年生はやがて卒業の榮譽を擔ふこと故満身の嬉悅は記者輩が村度描寫し能はざる處にて候踰へて二十三日春季皇靈祭の晝食時に

於て卒業生送別會を相催し候粗糞粗糞なりしかども三年石交の分袂に候へば送る者も送らるゝものも感慨無量果は黙々として言外の襟懐を相摺りあひ候二十四日午後後に到り卒業生諸君は見返り勝ちに慕はしき寮舎を後に致され其夜は殊の外淋しく候ひき加ふるに窓外春雨の蕭々たるありあはれば更に一入にて候ひき

き先には廿餘名の兄と淋しく訣れ候ひしも十五日には三十二名の弟を迎ひ候木曾路の花は未だ皚々たる雪に恐れて閉ざるれど寮舎のみ時ならぬ春陽に遇ひし如くにて其夜は舊舎生一同の微衷よりなる歓迎會を相催し校長舎監級主任先生の臨席を得赤心を表す赤飯にて迭に胸襟を開き大に歡を盡し茲に三星霜弟たり兄たる雪の親しき誓は結ばれ校歌のシンフォニーと萬歳の裡に散會仕候

春より人へ

誘いでゐるのである高い上天からフワフワと羊毛のやうに舞ひ下る雲が春の神使であるならば、大地からユラユラと立昇る陽炎は春の聖者の渴仰であるだらう。豊かな春の光が天來の啓示となつて、聖者の默示にあらはれた時、其處に人生永遠の新しい美しいライフを見出し得るのである、その啓示はライフの明るい光、處世の尊い指針なのである。見たまへ一ヶ月前まではうら寂しい筈のやうだつた山々の木立が、みんな芽をふいて萌黄になり、微かに息づいてゐるのを、春雨の一度過ぎ去る毎に、山も川も丘も泉も新春の紛装を凝らすに余念がないのを、凡て蘇りの怡を抑へ切れない態がアリと見ゆるのを、消へ残つた山々の泳や雪も融けて落葉の間をジメジメと下つて来る、そのさややかな響は春の歌ではあるまいか、涸れた泉も復活して又可愛い音をさせ、川の水も増して冬の間の砂地はもう水底である、ガサ／＼した枯草も角芽をもたげて根は春の水ささやいてゐる。柳の影は例さになつたり、紅の花が二ひら三ひら流れて来る、かうして丘も山も泉も川も、軟かな春のシーズンに圍繞せられ、人の心は飽迄もノンビリとなる、それにより優しい小鳥の鳴く聲や、暖かい風が生き物の感覚に觸れ、人々の五官に柔かく叩くものそりより立てるやうな刺激に人々の情緒は波動して止まぬ、そこが流石に春なので

ある。この雅かなシーズンが、あの慘ぢ目な秋や、冷かな冬の日のつゞきだとは思はれない、自然の色彩も人々の気分も一年は愚か一代かうあつて欲しい、又かうなくてはならぬ、春は萬象の覺める時、活動に入る時、希望の輝く時なのである、恰度若々しい思想をも華やかな希望に向つて、妄執から醒め烈しい活動に永い前途を捧げやうとする、青年の凡てがそれなのである、新しいライフの光が何物をも包み、佐保姫の裳裾のやうな霞か何物をも罩め、天の果から地の果まで希望と愛とに張り溢れるのが春である、春の野に立つて仰ぐ時、自分が青春の身である幸福とプライドと永い前途を思ふと自ら感謝の叫び、自重の歌を發せずにはおられない。早春一それの凡てが青年の心裡であり、青年一それの凡てが青春の気分なのである。

森林の詩趣

三年 信 天 翁

緑濃かなる櫛の林獨逸にあり、剝皮林として利用せらるゝ、しかのみならず獨逸人の剛健なる意氣を示し獨逸詩歌の表象となれりとかや。

かの鬱蒼たる櫛の森そこに美しき小鳥は歌ふらむ。或は高く、或は低く、或は清く、或は朗らかに、天に嘯り梢に啼くらん。ここに美しき歌の泉あり。そこに清けき詩の流れあり。才藻横溢したる獨逸の詩人、此

を謳歌する又ははれなしとせんや。あゝ詩趣ある哉櫛の林よ。而して詩趣あるもの獨り櫛の林に止まらんや。杉の林も、松の林も、櫛の林も、總て森林といふ森林の一つとして詩趣なきものはあらど。それ見よ。うれ聞け。亭々たる樹幹の美、翠滴る樹葉の美、萌は出づる新緑の美、彩りなせる紅葉の美、森林の美亦少しとせず。美なる所自ら詩あり落葉の音、啼鳥の聲、清泉の響、墜露の音天籟の聲、森林また樂なしとせんや、自然の調に詩あるなり。老碧古翠蒼涼の二氣を吹く老林の感、鬱々蒼々たる密林の感、林中の感何ぞうれ崇高なる、感ある所に抒情詩あり。朝に搖曳く霧、夕にかゝる霧、森林の衣服何が美なる、美なるところに抒情詩あり。翠葉を打つ雨、幹枝に積る雪、梢頭に照る月、これが森林の繪畫なる、繪畫又詩の泉たらざらんや。悠々自適、地上の樂園に眞柴かる老翁あり嬉々として樹梢に戯る猴鼠あり、これぞ森林の活劇なる、劇又詩の源たらざらんや。凡る森林にあるものとして詩趣なきものとなし。一樹一草皆詩あり一情一景皆詩あり、而も縦横上下見方によりて詩亦異なる、森林の詩趣の豊富にして亦廣大なる哉森林に親しむ者よ、これが業務にたづさはる者よ、汝にして詩趣を解せずんば森林の

穴川澤便り

藤 卷 壽 一君

趣味は半減せられん。たゞうれ汝よ、幸に詩を解する事を學べ。詩を詠する事を學べ。拜啓時下春暖の砌諸先生始め在校諸兄には如何御消光遊され候哉其後の御近況何申候次に往生事又別状もなく唯々碌々として生を迎へ生を送り動物的本能の外何事も認むるなきは誠に誠に漸々入る事に候幸福なる諸兄幸に邦家の爲に御自重あり度候時節柄上野の花岡田の堤のとの人の浮き立つ春當地は御在任の諸兄等は御承知の通り當半嶋には春を語る鶯色鮮かな花は僅かに香コブシの疎らに谷の畔りに殘雪に擬せる鶯の五月頃鳴く櫻の如き此處彼處に一枝に枝見る程にて突元柏子の様感せられ申當地の春は殆ど長閑な心地も致さず恰も客の隣より歸りし如く春か如く夏のみ過ぎ申候唯四時眼に映するものは櫛の深緑の誠に變化なき濃緑の外無之従つて花鳥に因む優雅の思索や優長の史談は出づる時少く明暮ヒバの造林の祈休の二六時中腦殺され申候殊に吾人の奉職する林區は日躍土曜の差別なく朝は八時より夕六七時迄時に點燈も珍しからず夜業は勿論に候殊に目下の任は祈休作業の爲半歳余は音信絶ゆる山中に初冬より初夏迄朝六時より夜十一時頃迄内事業に従事稀

には徹宵も致し申候事にて忙殺され夏季は造林に囚はれ纏まりたる研究も思索も立入る違も無之又少隙ありとて頭の余祐も無之從て恰も百日も食せざる行旅病人の其の如く思想全く疲れ果て、西も深山に百年に送り、仙人の如く兎角世事に疎く益々實社會に遠ざかりたる心地致申候事己が事に付けても思出られ候は、執近世道人心の漸く癡類に傾きつゝあるは如何にも思まはしき事に候例せば近來大正の聖代早々幾多の不詳事を出だし近來殊に貴公子に其多きを見れば國粹の漸く緩まんと憂慮せられ申候昨年來最も政界多事を極めたりし雖も赤誠を以て國事に當るに於てや敢て國事の一波とも見る可きも事利己に發したるに於ては誠に悲しむ可き事に候希くは國家の爲平安を祈る者に候尤も余は政事を彼此する者には無之候さて其に對しても國民精起向が慮られ遷生は眞面目な且熱心な求道者に候へ共篤信之節には未だ入られ申さず候次に日頃思付し一片を簡略に申上度候抑も吾人の精神的教育は小學校が發端にして又終り點でありしと思ふ否我一人のみならず國民の多くは然らんと思ふ而して以後は全く社會の風潮に一任するものにて其間に適當に指導するものなしとするに於ては國民の大多數は小學兒童にすら德育されて居らない譯だ即ち長月日の間に幾部減退したものがある筈だ茲に於てか吾人は社會の風潮を恐れる

のである此風潮にして惡良ならんには兎も角も若し不良なりとせば國家社會の災厄や實に計るべからざるものである社會の風教上各人の良心を直接司る宗教の信念信念こそ獨立不束の堅固なるものであるから之の養成こそ最も肝要であるを世には往々宗教を沫香臭く考へ之れは老若婦女の業か又は余世を樂しむ道樂の如く考へ居るも余之に首肯する能はず世が繁多になればなる程自分を安定する自覺が必要である先づ各人に安心を與へねばならぬ事物を達觀する暇を與へねばならぬ世間往々祈願や禮拜を時間的に打算して生産力を云爲するものあれ共之は甚だ愚なる話にして人間が器機的扱するの甚だしきものと余は考へる余は今後世に事を成さんとするものは、大宗教家の資格あつて又大策畧家で大理論家あらねばならぬと思ふ到底修養時代から本能慾に支配される様な青年では社會の一負ともなれないと思ふ否其處が翻つて我國勢を見るに國內大騒動して居る間に各國先を競ふて己が利權の扶殖に力めて瞬時止まぬではないか其れに目が醒めて手足を出す頃には何時も時遅れで中處で失敗彼處で失敗たれ畢竟大負債國なるを國師精神の衰へたとの三つであるされば吾人は先づ日夜勉勵して二十億の負債を返却するに力めねばならぬ余は今年の御聖典記念として植樹や何を企つても良けれ共其れより先に此負債を償

還を目的とする大々的の同盟を國民的に造り各村各町各大字毎に一致し一團体と成り毎夜二時間宛必ず別に各自の業に従つて爲すときは三年を以て祐に返すことが出来る豈何ぞ恐るゝに足らん唯此國民の元氣を欲しきものに候近時外交不振と云ひ何と云ふ之れ皆貧乏から來る騷動だ恐多くも先帝陛下が戦後の經營に襟襟を惱ませ給ひ戊申の詔書を下し給ひ尙も國民の自覺せざるを憂ひられ御憂慮の末篤き病を得られたと云ふに至つては實に恐懼の外ない國富充實を吾々臣民の陛下に報する道である以上一寸序に申添へた次第であるが文意の續かぬのと組立の成つて居らぬ爲め思想を言ひ現はせぬのは甚だ遺憾である何卒諸先生の御手人を仰ぐ要するに余は今後の國民には文明な宗教心の必要と云ふ事と報國の赤誠として一等國の地位を保つに足る國富の充實を企畫せざれば國粹の保存が出来ぬと云ふ事に候尙申添へ度は近來一般に正義心が衰へたり歸りたる夜燈下にて

思ひ出

三年 覺明 行者
慕はしい燕は歸つて來た。ツウイ／＼とあの白い腹をひるがへしながら矢の様に軒を涼めて飛び廻る青葉の蔭に腰を下うして遠くに聳わたつ雪の峰を眺めながら好きな詩を集めて讀んで見たくなる。

花散る日南國の海邊に漂泊ひては詠歌に泣き月出づる時北國の港にたゞすみては浪に消れ行く船唄に泣いた私は岐蘇に入つて又ひとしを故里を思ひ浮べる。

さうかうしてゐる中にどうやら春が來たらしい。ううだーあの老い行く春の淡い悲哀が夢の様に滲んで若やいだ私の心は虹の様にすれよとすると花一爛漫たる花翻たる落花。春の心はまことにあはたしい。身に沁み渡る冬の寒さを凌いで來た小さな芽が漸く春に遇つて蕾となり花を開いたと思ふ間もなくその花は散る。例合ば丹精を凝して漸く作りあげた殿堂が一夜の失火に灰燼となつたやうである。然し花は散るべき時に散つた勇ましく、散つた一建造は自然の目的であるか。止る事なくして常に動くのは万物の法か? 花は春毎に散る何故に咲き何故に散る。幾年も地球が同じ軌道を廻るやうに。そして私が毎日此教室へ入るやうに。セコンドの刻む様に。はしを待つ様に。噫!!!此意味を悟り得るものはたい詩人のみであらう。

神交の春紫虹生

自由と創造の春來し木曾や友生きよ
都便落櫻と里菜花時と返事かな
沙樹江樓煙波嶋に春の月
春草漲るにまばら片舎や蛇晴れて
月雫にうたつ小竹の鯛牛

春の風佛の灯呪ひけり
菓子食ふて野茶屋出づれば花かすみ
櫻間に婆々の愛想を買ふ團子
今朝の霜青葉に鹽の木の芽かな
春の夜や夢に理想の大地主
約束のつれもごかしや春の夕
摘む手から匂こぼるゝ望かな
壊れたる藏のうしろや桐の花
春の風花下に酒戦や京の里

長野便り 洋舟生

○春愈甜となりて梅は既に色褪せ櫻には稍早く當地名物の杏獨り爛漫遊子を喜ばしむ
○善光寺參詣の客は益々増加し博覽會見物の序に廻はりて參詣する者も多き様なり、團體の印なるべしと思はるゝ花簪を挿したる老婆連の市中を練り行く様一偉觀也。金縁眼鏡に金鎖の店頭小僧のベコ／＼頭を下げ居るも一奇觀なり。
○店頭小僧迄が金縁眼鏡に金鎖、絹の着物に絹の足袋穿つ世の中、それでも國家は何時も財政困難にて代々の内閣を悩ます國防問題も煎じ詰むれば財政問題なり社會の風潮汲々乎として危い哉
去十一日 皇太皇陛下崩御在せられてより市中肅然各戸に黒布を附したる國旗掲揚せられて道行く人にも謹慎の狀態はれぬ
○去月二十五日母校の北村先生來長せらる郡農商務省技師寺崎氏が上高井郡仁禮村の杉村調査に來られしを新聞にて知られ學年

思ひ出

未休假を利用して同行せられんが爲めなり然るに惜むべし寺崎氏は期日變更二十四日調査を終り二十五日には輕井澤に行きし後なりき
○依りて先生は單獨同杉林を視察研究せらるゝ事となり此夜は當地に宿らる此好機を捕へ在長關係者相會して先生の爲に小宴を張る會するもの六名(弘世縣技師、西澤先生林君、上原君、渡邊君及余)之に主賓を加へて七名林業界の話さては母校を中心とせる懷舊談などにて時の過ぐるを知らず觀談九時に至りて散會す
○二年間直接先生の教訓を受けたる渡邊君と己とは尙話し足らぬ心地せられれ明早朝出發の筈なる先生の御迷惑をも不願宿屋迄襲撃申上げ十一時過ぐる迄語り續けて漸く辞去せり。此日高樋氏並に郡役所の杉本氏の出張中にて參會せられざりしは残念なりき
○余四月十七日より數日間大正博覽會出品の苗木検査の爲め南北佐久兩郡に出張す余の佐久の地に入るは一昨年修學旅行の時汽車中にて小諸御代田等を通過せし外今が始なり佐久は淺間山の在る處淺間山の如き氣荒の人氣所謂佐久人氣なる處養蠶の盛んなる處鯉や桃の産地として名高き處林業界に落葉松の産地として名高き處なり
○出品苗木もさすがに落葉松のみにて南佐久十點、北佐久十二點あり北佐久の不良苗木二點を除く外全部出品せしむる事とせり

○南佐久郡 苗木は何れも根元灣曲せり床替法悪しく所謂葱植せるが爲なるを證す北佐久郡の苗木は何れも根元真直根張良好なり床替方法の宜しきを證す其他總ての條件に於て南佐久郡のものに優れり

由來民間苗木養成にて床替方法の不完全なるは林業に携はる者の遺憾とする處なり北佐久郡出品人曰く以前は葱植に爲せしも近來其弊を覺りて床替方法を改良せりと林業界の爲め慶すべき哉

○南佐久白田町にては圖らずも白田小林區署の高橋作次氏(第一回卒業生)に面會夜余の宿を訪ねらる始めての面會なるに同窓の聞けば恰も百年の知己の如く思はれて昔の母校の様子今の母校の様子さては卒業の事ごと交々語りて時を忘れ十一時に至りて同氏去らる

○白田小林區署管内の林業状態に就きて詳く聞知一段の見聞を擴め得たるは深く謝する處なり

○北佐久郡岩村田町にては同級たりし關谷君に會す岩村田小林區署に在り同小林區署管内の林業状態を聞く君とは今年二月長野にて相遇ひしも今會すれば亦話湧くが如し余此處に宿ること二夜毎夜君來訪十一時過ぐる迄談笑しぬ

○岩村田より協和村に至る途中中仙道に沿へる名木相生松を見る一見一樹の二股となりし如くなれど恐らくは二樹の基部癒著せるものなるべし枝振も良く殊に面白き一樹には球果數多附着し他樹には之を缺く球果あるを雌松と謂ひ之なきを雄松と謂ひ而して之を相生の松と稱し中仙道に於ける著名の名木なり

○亦一日黄昏暇を偷みて岩村田町東部に在る鼻顔(ハナツラと訓す)稻荷に詣つ養蠶の結果を得んとて參詣する者いと多と云ふ

○余宿に關谷君を迎へし時相生松鼻顔稻荷の名所は探りたるが其他に岩村田の名所名物はなきかと言へば名所名物はそれ丈なる言ふ早速下女に蕎麥三人前を命ず間もなく蕎麥來る。二時間程前に夕食認めたるに復た二人にて蕎麥三人前を平けて下女君を驚かすされど之暴食にあらず建啖なり暴食は戒むべきも健啖は獎勵せざるべからずと二人にて勝乎な説を設けて笑ひぬ

○關谷君より贈られたる桃の鐘二箇を携へて十二日夕無事歸長(四月十四日夜草す)

川崎前助手慰勞金領收報告

- 金三拾錢(但申込ノ)
- 藤卷壽 一君
- 金五拾錢
- 木下 清君
- 金五拾錢
- 乙谷耕 吉君
- 金壹圓
- 永井 順君
- 西野入 德君
- 小計二圓八拾錢

林前教諭慰勞金領收報告

- 金七拾錢(但申込)
- 藤卷壽 一君
- 金貳拾五錢
- 温井誠 一君
- 金五拾錢
- 木下 清君
- 金五拾錢
- 乙谷耕 吉君

安井前書記慰勞金領收報告

- 金五拾錢
- 永井 順君
- 金壹圓
- 西野入 德君
- 小計三圓九拾五錢
- 金七拾錢(但申込)
- 藤卷壽 一君
- 金壹圓
- 辻敬 二君
- 金二拾五錢
- 温井誠 一君
- 金五拾錢
- 木下 清君
- 金五拾錢
- 乙谷耕 吉君
- 金五拾錢
- 永井 順君
- 西野入 德君

校友會費領收報告

- 金壹圓
- 千村善 三君
- 下畑德十君弔慰金領收報告
- 金五拾錢宛
- 小林桂一郎、辻敬二君、木下清君、乙谷耕吉君
- 西野入 德君
- 小計三圓 累計六圓五拾錢

編輯局より

研究雜誌部員
△料増たる春寒も漸く相退き木會、昨今は幾分大約春の粧ひに入り野風も響しく編輯局の窓を訪れ快感謂ふ可からず候
△生等は茲に先輩諸君に尾して編輯の重任に當り候ひしもの實情乳臭何等の抱負もなく何幾の成算もなく唯前益々其責の重且大に恐縮するのみにて候されど努力を勉む事に當り最善の傾注盡すは敢て惜むまじく只管履勉仕るべく候
△而して本誌がよく本會の機關たる任務を遂行し得るや否やは偏に諸兄の御同情如何にか之を希望仕候
△御願慮に依り金編玉稿の雨下あらんことを希望仕候
△幸に文字を識りたるもの程幸福なるものは無之候何しなれば遠大の抱負や高遠の思想如何程多量に胸裡に含著するも發するなくんば所謂寶の持腐り候長く候候に口によるよりは文字による方途に強く且つ長く候候國の大業不朽の盛事は所以なき儘に候はす千古の金言にて候よ此林友の編輯員一校書家の専有印刷機に候はすや此林友の耳目舌に當るものにて候はす遺關にては無之全校友の耳に當るものにて候はす諸君も此意を諒せられ幸に投稿の勞を惜し給ふなきを切望仕候
△本誌の形式内容ともに御氣付きの点は御遠慮なく御聞かせ被下度候
△編輯の始めに當り卑見を開陳し爾後本誌の發展を祈る次第に御座候頓首